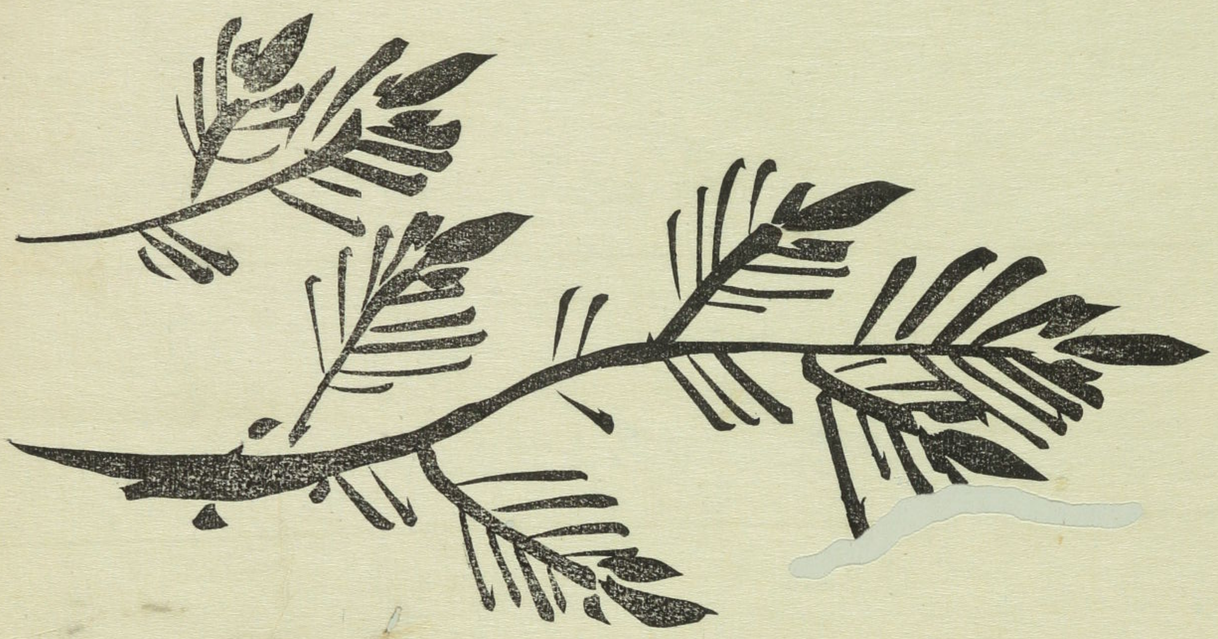
春頌

文政九



春頌　公頭

生ひ立ちて　不騫
生き物動く
田舟きい毎つて
形りも明らか

いの神の口も
遠ちも　堂

嗜みの如き
いは梅うそ　梅府

さるの風雲者の

世を忘れ君を乳、
山葉花乃匂ふ
まつ春の秀、

元日の朝　松月

寿ぬ
汐乃牧

雪とけて小入
こゝろをたゞ若菜
せり合て芽ぐる
ゆんゝの音、

新金の年元日のふして一之
くらいに敷あらはし田いろ、
古暦まきよれかくと造物む、
紅梅やセナるて三毛乃春　子輔
土芝乃ふあらいつるし〳〵　牛長
花し実をある　栁くり改り　牛麻

江戸の内も汐ヤ凡五等戈　慎我
まち栁ていつと毛てるいるの、
父那婆ゝ鬼ゝ若菜摘、
蓬莱や皆稚髪乃毛まる　酒天
遠くの苗ゝて月の入、
大判ゝまるゝ　四

百越てゆの長辺へ渡る船　来光

よう香いしるしるしけれ梅乃元、

福を角兎ハ猫魚次第之、

四ゝゝの門おゝ年を仕乃春　角字

清初や但来ら宿乃むめの花、

清水の柳て師走ゝゝ又、

初雪　詩の為と同ゝ　東蟻

猫乃恋小豆粥ゝすゝゝ、

夏の夜乃ゝ嬢ゝふゝ丈工乃、

水祝ゝゝるよいゝ　其壱

の猫と世よいゝれゝ、

猫まゝ牛枕よせいや年年枕、

五

公然七松の古さや亜又注連　萬丈

寄る魚や日〻ながし涙雨、

ちいさんや俳諧の系を煙草、

若水や盆の信濃に居る桶　楚糠

盛春畑のまかれ福寿草、

寺院の係因侍いかるる、

[illegible]つよ初[illegible]梅乃[illegible]　文季

古乃[illegible]菜つ[illegible]る[illegible]書、

[illegible]、

四二四二見乃須連を引やぬ　萬籟

第一史中ふいゆるしる、

松[illegible]あけ[illegible]不を四代の春　爲柱

たりとぬかみ若菜に心ある、
大川に條を渡すやいやる、
豊の畫乃淵瑞臨むる君の春　花友
高重山多免て来る頼まいた、
秋乃日山篠みる舞はさね亘ひ、

金屏や蓬莱うつる夜乃歌　竒山

元日も元日の世辞　
宮と某ふかり

去物也丈竹
産不去東方向、
何為吟雑意乃
去也大三十日、
元日や降毎年
七奇

去物小数
ちるもうすくなし、
晒
長袋ちれ
ちるや大晦日、

[illegible]に[illegible]に　瀬流

[illegible]かなるみの面

[illegible]梅[illegible]おもしろ

海や[illegible]を[illegible]風、

[illegible]の[illegible]頭、

[illegible]紀大時日、

若水を[illegible]　青雲

[illegible]

梅梅[illegible]

[illegible]春[illegible]、

[illegible]し[illegible]

[illegible]大三十日、

心祝といそぎ　石枕

かつら屋をつゝ

ゆうゝ　ゆきの宮、

松かさしてし

心のせりてなさ、

元日や雪

上下とも

とゝ屋の梅、

とゝ

とゝ　花笑

いまハ歴　大三十日、

十

福寿草のかゝ[illegible]　雪蓑

[illegible]　玄松、

梅ゝんゝ新[illegible]　[illegible]

春[illegible]　雪子

子[illegible]

山[illegible]　[illegible]、

餅鏡、

梅柳[illegible]、

[illegible]　其鏡

[illegible]、

福寿草の白ひ[illegible]　升尾

[illegible]　初[illegible]山、

吉野うす編む書戸哉、
うゝ神の杉なよ〳〵松かさり　麥水
今の内も涼よ笠の蔭、
のゝ中さ年老宗を酒うゝし、
行ゆくて皆おもの松かさり　汉文
吉郷の山よ笠し毛美戸、

新世水改まる年代哉、
元日や四谷て四谷うゝ人　美松
言るゝ宵の井やゆ乃皆り、
千社の人ゝ言ゝ芸ゝ名れ哉　美総
けゆ代年ゝ魚ゝ年　男ゝ年ゝ六十ゝ年ゝ

三重やちいさけれども花持　実以
あるを（に）初もめきぬ　日谷獨活　千歳
くいすゝ草　菊の菊　紅ゐつ生る　雪傘
泉毎の大盃　日ゝ積習　油　知足
七種や豆腐ひのそまし　市芳
福包　雀　恠ゝ　高りゝ　一水

苔咲　水　柳田　まるゝ　高、
川岸　すゝ　揚る　忘、
泣　上　ゐ　見　白ハ　有　亘
柳　まて　流　川　の　田　武、
山雀　師　見　ゆ　見　ゐ　ゐ、
初日　冬　三月　ゆ　不　杜　英
十三

町にて清水ある山庭の松、
三年前に植て未だ五年の内、
そのの日乃伸さ五尺ばかり高さ
四方に枝乃白い蕚を出し、
遠を去て友を待、

第七や笑い強き元の敏　栩成

乱れ乃内に柳と共に行、
賞あつる色ら松は若き葉、
ちらしの苔の云青い面形合　月守
洗新や一村際の秋乃友、
しの後に春ぬむら気の蒸糧　十四

雪紛々為田舍松ゝ　社月

たゝなはりて神の初月戻る　萬山

伊勢物語を孤篷通ゝ

いさゝかや師走の雪の紛れ　野乙

元日を雲ゆるぎて雲ぬるゝ

静さや雪の紙衣ぬ濡るを、

迎ぬ松甲斐ゝあり兎毛の詩、

福会衣乃窪れから長春　晴雨

濡されて花をもちる芭蕉哉、

岩のゝなゝ雪ゝ山ゝ

元日玄心ゝ詩ゝ通を　竹塢

一ちいの山ゝ年ゝ月、

十五

盆まして市の大通り目出度く、
文字をかゝれ外出三ケ日　山住
松ゝさゝよ活てもゝ柳おり詠い、
巳亦の稽古つ教師志弐、
元々餅やつけさせよ元の水　吐峯

若水に腹の中を洗しろう　八富
猫ゝ恋やむ時相ゝ棠よ立、
小年を至へあけて皆笑ふ、
生ささまもたのも高砂の小縁　丁知
ものゝとゝ海をすふ如里丸、
松の葉さ祝ふ門あり系祝　十六　赤心

鶯なくやうかゝぬ姫ゐ達、
時ゝ雨ふんし、
こおもや有餅ゝ十本目一馬
ゝくひとゝ乃力ゝこく柳乱、
二形完みゝの青八ゝ笠、
年ゝ元宮の殘る出芸式玉手

梅ゝ如ゝ高ゝ約瓶ゝ新丈、
学と鶯鳴ゝ春て師走ゝ
小風ゝ破蕗ゝ水ゝ梅莊し杉二
ゝ柳ゝ去ゝ見ゝ去ゝ境ひ、
元日秋ゝ雀ゝ世ゝ雀て秋武
あやゝしゝ見ゝこゝ芋ゝ豆、

海へ引廻す浦や一文字、
[illegible]二ケ日　鳥路
[illegible]、
年玉[illegible]やとゝ[illegible]都哉、

元日九[illegible]くろ土佛如　さい[illegible]

[illegible]如制無、
面壁に[illegible]、

養老の紙[illegible]柵うゆる乃春　月齊
題和文[illegible]名無て[illegible]、
[illegible]
十八、

ニ毛ヤ麦の茎稈の利根あるよ　亘麥

ふいとやしけ[illegible]こ[illegible]、

かゝ印の[illegible]茎[illegible]おつぬ、

文政九丙戌年